# 校長室だより　Ｎｏ６

# 夏休みの宿題は日頃の試し

２０２４年　７月１７日　柏市立富勢小学校　校長　梅 津 健 志

いよいよ今週末で１学期が終わります。来週からは待望の夏休みに入ります。夏休みの思い出を振り返ってみると、普段できない夜更かし、山や海などの自然の中での出来事など、保護者のみなさんもそれぞれに思い出がありますね。そして、夏休みの宿題というものも、８月 31 日に泣きながら終わらせたという思い出を持っている方もいると思います。夏休みというと宿題という対になる概念があります。

近年、夏休みの宿題が少なくなってきて、自分が子どもの頃に比べて楽になってきたと感じることはありませんか？世代によって異なりますが、夏休みの友と称されるドリル冊子に自由研究と読書感想文、そして絵日記や絵の宿題が必ず課せられていましたが、今はドリル冊子が無くなり、何か一つを行うだけになっています。今年は、夏休み中の様々な作品応募に４年生以上は一つは応募する、という宿題で統一しました。

夏休みの宿題が少なくなってきた背景には、やらされる宿題からの脱却があります。これからの社会では、上司の指示に忠実に従うだけでなく、自分で仕事上の課題を見つけ、解決方法を見いだし、失敗を恐れずにチャレンジしていく人材が求められています。それに向けて、学習指導要領が変わり、子どもたち自身が自分で興味を持って、自分で計画を立てて取り組む学習スタイルに大きく転換がはかられています。従って学校では、子どもたちの興味・関心を引き出し、やってみようという気持ちにさせて学習に目覚めさせて、子どもたちの挑戦をバックアップしていくという指導法に変わってきています。

夏休みの宿題も宿題があるから勉強をするのではなく、自分で課題を見つけて、どこまでやるかゴールを決めて、それに向かって挑戦する形での取組に変わってきています。自由研究や調べる学習コンクールに取り組む時には、「調べる学習ハンドブック」（柏市作成で個別配付済）を活用したり、読書感想文は優秀作品がネット上に掲載されているものを参考にしたり、今までの学習や一人１台環境を活かしてどれだけ子どもたちが取り組めるかが、夏休みの課題です。学校の教員も子どもたちの様子を振り返って今後の指導を変えていく必要が出てきます。子どもたちが自ら課題を立てて取り組めなかった場合には、普段の授業の際にそういう取組が必要です。宿題が無ければ勉強をしない、というのは昔の子どもたちの様子で、今の子は自ら取り組むことが大切です。運動に取り組む子もいるでしょう。大谷選手のようにしっかりデータを計っていけば立派な研究にもつながります。前例にとらわれない子どもの発想の取組を楽しみにしています。